

入試期間 その2

令和2年度入学者選抜前期試験の募集定員に係る応募状況に例年とは異なる大きな変化が垣間見えたことは、皆さんお気づきでしょうか。

公立高校が軒並み倍率を下げたのです。それも、いわき地区は顕著で、いわき光洋高校が、例年より倍率を上げた他、倍率が上がった高校はなく、わが磐城に至っても、募集定員を9人上回るだけの応募しかなかったのです。磐城桜が丘は、54人ほど定員をオーバーしていますが、21日の福島高等工業専門学校の一般入試が発表されると、かなりの数の辞退者がありますので、うかうかできない状況です。そのほかに平工業も平商業もいわき総合も湯本も、定員に至っておりません。非常に苦しい立場に追い込まれています。

大きな制度改革によって、早く合格を決めたい心理が動き、私立高校の専願の数かみるみる増えていったことはみていましたが、これほどまでとは予想もしませんでした。私立高等学校の授業料が、消費税率値上げの恩恵を受けて、公立並みになることは確かですが、そのほかの諸納金や入学金は、通常通りかかるので、やはり私立高校へ入学した時の経済的負担は家庭の中で高いはずなのです。しかし、それでも、この数字を見ると、いつにもまして公立受験までは待てなかったことや安全志向の傾向が見えてきて、正直驚きました。

とにもかくにも、明日からの試験においては、受験生や保護者の方々の心を考えつつ、試験の運営を進めていきますので、何卒よろしくお願いいたします。

受験期間中は、校地内への立ち寄りを制限し、校舎内への入室を禁止する場合がありますのでご理解のほどよろしくお願いいたします。

また、様々な部分で迷ったり、質問がある場合には、中学校にも確認しながら、対応することもあります。保護者の方々が、試験中にいる場所も、百年記念館内と決めさせていただいております。

さらには、自家用車等の校地内への乗り入れや、各業者への校地内への立ち寄りにつきましても、禁止させていただく場合もあります。

加えて、試験中の急な体調不良や、危惧すべきところなどがあった場合は、中学校を通じて保護者に連絡する場合がありますことから、よろしくお願いいたしますと考えます。

一番は、体調を維持し、思う存分の実力を発揮できる環境を作り、どのように運営してまいるかの1点にあると考えますので、よろしくお願いいたします。

磐高生になる第一関門をぜひ突破していただけるよう心から願っております。